

平成二十五年度の総合水産試験場の取り組みについて

長崎県総合水産試験場 企画開発推進室

はじめに

皆様方には、水産業の試験研究の推進に関し、日頃からご支援、ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。長崎県総合水産試験場は、平成九年の供用開始以来、今年で十七年目を迎えました。

五、一三三

当水試においては、本県水産業振興の指針である「長崎県水産業振興基本計画」に基づき実施される各種施策の実現に必要な試験研究や技術開発などに、計画的に取り組んでいます。

また、「開かれた総合水試」として、加工機器などの各種設備を広く一般に開放し、水産業界や県民の皆様の要望に添った試験研究や技術指導を行っているところです。

それでは、本年度の主な取り組みについてお知らせします。

主な事業の紹介

(事業費 千円)

一 地域型資源管理予測技術開発試験

一、六四二

本県周辺海域における地域特産資源の適正な利用を目的として、県北地区のカタクチイワシや彦岐・対馬地区のケンサキイカなどを対象に、生態や漁獲状況等の基礎資料を収集し、資源評価や漁況予測の手法を開発します。

二 漁海況情報提供強化事業

二、六九五

漁業操業の効率化を図る上で重要な漁海況情報の充実を図るため、従来の提供情報に加え、

人工衛星による漁場情報などを取り入れた、精度の高い漁海況予報を作成しています。また、

隣県と連携した提供情報の広域化や、ホームページ・携帯サイトの充実など情報入手の利便性向上にも取り組んでいます。

三 放流種苗の評価基準づくり事業

放流種苗の活力等を評価する手法を確立し、種苗の評価基準を作成することにより、放流効果の向上を目指します。

四 クエ資源管理技術開発事業

一、五六〇

クエ資源の持続的利用を図るため、生態学的知見の解明や資源評価に加え、効果的な放流手法の開発を行い、種苗放流と資源管理を組み合わせた資源管理手法の検討を行います。

五 良質な種苗の生産技術開発研究事業

一四、七二九

種苗生産に関する基礎的技術開発から技術移転までの期間をスピードアップし、養殖用、放流用それぞれに最も適した種苗(クエ、クロマグロ、カワハギ等)の生産技術を開発します。

六 養殖魚類の育種技術開発研究事業

一〇、二五八

トラフグ、ホシガレイ等について、既存の養殖魚を質的に上回り、価格競争において優位に立てる品種を作出するため、最新の育種技術を取り入れた種苗生産技術を開発します。

七 貝類養殖の優良・高品質化を目指した基盤

技術の開発

(新規)

四、一一七

貝類養殖の高度化・収益率向上のため、マガキ人工種苗の品種改良に有効な親貝の生理指標等の開発と、費用対効果を向上させる効率的な種苗生産技術を開発します。また、「照り」の良い真珠を生産するアコヤガイの特徴を解明するとともに、「照り」を良くする品種改良や養殖手法等を開発します。

八 環境変化に対応した藻類増養殖基盤技術開発

環境変化に対応し、藻類養殖では、ヒジキの群落管理や種苗生産技術の開発に加え、ノリ等の安定生産のための漁場環境などの調査・情報提供や技術改良等を行います。また、磯焼け対策として「春藻場」の効率的な造成を図るため、魚の食害の分散・低減効果が期待でき、大型藻類への遷移を助長する役割をもつ小型海藻の造成技術の開発を行います。

九 水産物供給体制づくりのための技術育成事業

県内水産加工業者、水産物流通業者等に対し、開放実験室の活用・現地指導・研修会・広報誌の発行などによる商品開発・改良の支援や、水産物の品質・鮮度向上のための技術開発・指導を行います。

十 水産加工原料確保のための新原料開発

水産加工品原料の確保と県内に水揚げされる低・未利用魚種の有効利用のため、本県の主要水産加工品であるねり製品、塩干品について、低・未利用魚種の特性に合わせた加工品製造技術を開発します。

十一 有害赤潮プランクトン等総合対策事業

有害赤潮および有毒プランクトンによる養殖魚のへい死や貝類の毒化に伴う食中毒を防ぐため、現場調査、主要原因プランクトンの動態予測および有効な防除方法の検討を行い、人的被害および漁業被害の発生を防止します。

十二 内湾漁場の有効活用技術開発

アサリ漁場等における貧酸素化による貝類のへい死を低減する技術開発に加え、餌料環境を改善することで、アサリやカキの安定生産をめざすとともに、真珠養殖漁場の環境特性を把握することで、真珠養殖における経費の節減を図ります。

十三 戦略的養殖業を推進する技術の開発

収益性の高い養殖業を実現するため、市場価値が高い新たな魚種や、消費者に支持される養殖魚を生産するための技術開発を行います。

十四 魚病対策技術開発事業

養殖業の収益性を低下させる最大の要因である魚病を克服するため、疾病に対する技術開発と病気に強い家系の探索を行います。

この他、「有明海漁業振興技術開発事業」、「陸上養殖振興プロジェクト推進事業」などについても、水産部内で連携のうえ、業務を遂行しています。また、「戦略プロジェクト研究」（産業労働部所管）として、他の公設試験研究機関と連携した試験研究にも取り組んでおり、一例として海外輸出に向けた活魚輸送技術の開発を進めています。

当水試に隣接する「独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所」および「長崎大学環東シナ海環境資源研究センター」との連携をより強化するため、定期的意見交換会、各種会議の開催や施設一般公開「ながさき水産科学フェア」共催等を行っています。

情報の発信

当水試が取り組んでいる試験研究の内容について、理解と関心を深めていただくため、各地域で研究内容や成果の紹介及び意見交換を行います。「移動水産試験場（出前水試）」を開催しています。

また、ホームページや携帯サイト等を活用した情報提供を行っています。

一 漁海況情報の充実

漁業活動を支援するため、毎週金曜日に発行する「漁海況週報」や随時発行する「漁海況通信」で様々な情報を提供しています。なお、「漁海況通信」は、情報が漁業者の皆様の目に触れる機会を増やすために、掲示できるサイズで市町、漁協に配付しています。また、バックナンバーを含めホームページでも閲覧できるようにしています。



「漁海況通信」(A3版)

二 ホームページ

主な内容は、施設紹介、研究計画、研究報告、情報サービス、漁海況情報、ニュース、試験研

究情報です。図集「長崎県の漁具・漁法」や魚の捌き方なども掲載しています。

三 携帯サイト

漁海況通信の概要版、赤潮、水温情報などを掲載しています。携帯電話のバーコードリーダーで左のQRコードを読み込むとサイトへジャンプします。

おわりに

「開かれた総合水試」として、水産業に直結した役立つ試験研究を推進してまいりますので、皆様のご意見、ご要望がありましたら、当水試（〇九五・八五〇・六二九三）か、最寄り水産普及指導センターまでご連絡いただきますようお願いいたします。

（企画開発推進室 若杉隆信）

長崎県総合水産試験場

○電話番号

095-850-6293

○ホームページURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

○携帯サイトURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/mobile/>

※右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダー機能で撮影すると携帯サイトへジャンプします。

